

5 (金)

バプテスマのヨハネ

マタイによる福音書三章一〜12節

その頃、洗礼者ヨハネが現れて、ユダヤの荒れ野で宣べ伝えて、言った。「悔い改めよ。天の国は近づいた。」(1、2)

イエスの宣教に先だち、バプテスマのヨハネが荒野で教えを宣べ伝えました。ヨハネが語ったことは二つのことでした。一つは天の国が近づいたということ、もう一つは、そのために悔い改めが必要だということでした。天の国とは場所を指すのではなく、神が王として支配なさるということです。ヨハネは、神の恵みの支配がもう始まろうとしていると訴えたのです。そのために、自らが王となり、支配者となつてゐるその生き方の向きを変えなさいと迫つたのです。ヨハネは、ただ罪を悲しんだり、後悔するだけで生き方そのものを変えようとしなない見せかけの悔い改めを厳しく叱責しました。真の悔い改めは、救い主を信じる信仰という実を結ぶものだからです。新しい年の初めにあたり、人生の向きを変えるようにして、神を王として私たちの心のお迎えしようではありませんか。